

## 中学生ピロリ菌検査 Q&A

### 【臼杵市が実施するピロリ菌検査の対象について】

Q なぜ対象者が中学 2 年生なのですか？

A 臼杵市では、20 歳を対象としたピロリ菌検査（無料クーポン券配布）を実施していましたが、進学や就職で市外に住んでいる方も多く、受診率は 15%以下でした。より多くの方に受診機会を設け、早期の予防につなげていただくために、学校での定期健康診断の尿検査にピロリ菌検査を追加する方法へ移行し、平成 29 年度から中学 2 年生を対象として実施しています。ピロリ菌は早期に除菌したほうが胃がん発症の予防効果が高いと言われておりますが、未成年者の除菌治療は保険の適用がありません。これまでの研究より、体格などから判断して中学 2 年生から除菌治療自体は可能とされています。以上の点から中学 2 年生を対象といたしました。

Q 中学 2 年生の子どもがピロリ菌に感染している可能性は大きいですか？

子どもの胃がん発症の確率はどのくらいですか？

A ピロリ菌の感染率は年代によって異なりますが、中学生では約 5%が陽性であると言われております。ここ 5 年間で臼杵市で実施した中学生のピロリ菌検査の陽性率は 2%~5%程となっています。胃がんの罹患率（2020 年）は、0~4 歳は 0.1、5~9 歳は 0、10~14 歳は 0.1、15~19 歳は 0.1（対人口 10 万人）となっています（出典：国立がん研究センターがん情報サービスより）。

### 【ピロリ菌検査の内容について】

Q ピロリ菌検査の種類や違いを教えてください。

A ピロリ菌の感染の有無を調べる検査には大きく分けて 3 通りの方法があります。

①胃カメラ時に胃の粘膜の一部を取って検査する方法

②血液、尿、糞便中の抗体・抗原を調べる方法

ピロリ菌に感染すると体の中でピロリ菌に対する抗体というものが作られます。この抗体は血液中、尿中に出てくるため、この値を調べることでピロリ菌感染の判定が可能です。糞便中にはピロリ菌が含まれているので、抗原を調べることでピロリ菌感染の判定が可能です。

③尿素呼気試験

胃内にピロリ菌が存在すると呼気の二酸化炭素の性質が変わることを利用する検査で苦痛なく安全に検査可能です。

どれも残念ながら 100%の信頼性ではありません。成人の場合は①または②、とくに集団検診などには②が多く使われます。③の尿素呼気試験は信頼度も高く、主に精密検査や除菌後の判定（除菌成功か、否かの検査）に用いられることが多い検査です。

成人の場合、まずは胃がんの有無を検査する必要があるために胃カメラ検査が必要となります。胃カメラ検査の所見からピロリ菌感染が疑われるときに胃の粘膜の一部を採取してピロリ菌検査を行うことが多いです（胃カメラを使った検査でも偽陽性や偽陰性（±）、つまりピロリ菌感染していないにもかかわらず陽性となったり、ピロリ菌感染があるのに陰性と判定されることが起こります）。学童の場合、（中学2年生に関しては）胃がんの可能性はまずないために胃カメラ検査をせずにピロリ菌の感染検査として体に負担がない尿検査でピロリ菌検査を行うことをお勧めします。尿検査で陽性の場合、2次検査として尿素呼気試験で再確認させていただきます。

### 【ピロリ菌検査の流れ・結果について】

**Q 尿検査で陽性、2次検査の尿素呼気試験でも陽性となった場合、ピロリ菌感染の可能性は100%ですか？**

**A** 検尿でのピロリ菌検査では偽陽性（ピロリ菌に感染していないにも関わらず陽性となる）がありうる検査です。そこで検尿で陽性となった場合、更に詳しい尿素呼気試験で精密検査をする必要があります。尿素呼気試験は体に全く負担のない検査で安心して受けていただけますが、100%の検査ではありません。報告により多少のばらつきがありますが、大人では97%以上と報告されています。学童の場合も同程度と思われます。

**Q 2次検査（尿素呼気試験）で陽性の判定の場合、親も陽性の可能性がありますか？**

**A** 現在、日本では家族内感染が多いと言われており、この中でも母子感染（ピロリ菌を持った母親から乳幼児への感染）が重要といわれています。ピロリ菌検査で子どもさんが「ピロリ菌陽性」と判定された時には両親、兄弟、祖父母など家庭内でのピロリ菌感染の可能性もあります。ぜひ、ご家族でピロリ菌検査を積極的にお受けください。また、除菌についても専門医とご相談ください。

**Q 2次検査（尿素呼気試験）で陰性だった場合、その後検査を行う必要はないでしょうか？**

**A** 尿素呼気試験で陰性の場合、まずはピロリ菌感染の可能性は低いと考えられます。胃がんの予防としては、ピロリ菌感染だけが胃がんの原因とは限りませんので、定期的な胃がん検診の受診は必要であると考えます。（現在の国の指針では、胃がん検診として40歳以上の胃バリウム検診又は50歳以上の胃内視鏡検診が推奨されています）

**Q 生理中の場合、尿検査は後日提出ができますか？**

**A** 後日提出日について学校側よりお知らせがあります。ご安心ください。

### 【結果通知について】

**Q 検査の結果はどのように通知がきますか？**

**A** 生徒と保護者様宛てに臼杵市医師会立市民健康管理センターよりご自宅へ郵送いたします。なお、学校側に検査結果をお知らせすることはありません。

Q 陽性判定となった場合、子どもに知らせるべきですか？

子どもが心配しないか気になります。

A 一番重要なことは、本人を含め保護者、関係者がピロリ菌について正しい知識を持つことです。ピロリ菌陽性者に対する除菌の胃がん予防効果は、早ければ早いほど効果が高いと言われていますが、20代までにピロリ菌を除菌すれば予防効果が高いと言われています。陽性と判定された子どもさんにはピロリ菌についての知識を正しく伝えることで、不安の解消に努めることが大切です。ご本人や保護者の不安が軽減できるよう、希望に応じて相談や説明も行いますので、保険健康課（Tel 0972-63-1111）までご連絡ください。尚、早期にピロリ菌の除菌を希望される場合は、市民健康管理センター（Tel 0972-62-2526）までご連絡ください。

### 【ピロリ菌検査の金額について】

Q ピロリ菌検査の料金に自己負担はありますか？

A ピロリ菌検査は一次検査の尿検査、二次検査の尿素呼気試験、どちらも市の補助で検査を受けていただきますので、自己負担はありません。

臼杵市尿ピロリ菌検査補助内容（R7.3月時点）

項目	通常のコ額	自己負担
尿ピロリ菌検査（ウリネリザ）	2,640円程度（税込）	無料
尿素呼気試験（2次検査）	7,040円程度（税込）	無料

### 【除菌治療について】

Q 陽性だった場合、除菌治療にかかる期間や費用はどれくらいですか？

除菌治療の費用はどうなりますか？

A 臼杵市では、ピロリ菌感染の有無を調べるピロリ菌尿検査と2次検査の尿素呼気試験まで無料で行います。除菌治療は中学2年生から可能ですが、保険適用外であるため、治療は任意で全額自己負担となります。費用は必要な検査や薬剤により異なりますが、概ね25,000円～30,000円が目安となります。尚、副作用出現時の治療は健康保険で対応可能です。20歳以降の除菌治療は保険も適用され、20代での除菌治療でも遅すぎることはありません。なお、20歳になる年度で市より勧奨通知をする予定にしております（臼杵市に住民票がある方のみ）。

Q 中学2年生で除菌をする場合は胃カメラ検査が必要ですか？

A 胃カメラ検査は必要ありません。胃カメラ検査は主に胃がんが発生しているかなどを確認するために行いますが、これまでの統計では中学2年生で胃がんの発生は極めてまれであるため、胃カメラ検査を受ける必要はありません。ただし、胃の症状（胃もたれ・吐き気・食欲不振・胃の痛みなど）がある場合は、必要に応じて胃カメラ検査をお勧めすることがあります。尚、成人での胃カメラ検査では胃がんの発見に加えピロリ菌で引き起こ

される萎縮性変化や萎縮度をチェックします。成人での保険適応の除菌治療は胃カメラ検査を受けることが必須です。

**Q 除菌治療をしたら胃がんにはならないのですか？**

**A** 胃がん患者さんのほとんどはピロリ菌に感染しており、このピロリ菌感染症が胃がんの発生の原因であると言われています。また、胃がん発生の予防効果は除菌時の年齢に関係すると言われています。したがって早期にピロリ菌を除菌することにより胃がんを予防できる可能性が高くなります。100%の予防は不可能ですが、20歳以降、なるべく早い年齢での除菌をお勧めします。中年以降での除菌は胃がんの発生の報告もあり、除菌成功者でも定期的に胃カメラは受ける必要があると言われています。

**Q 除菌治療後、除菌が成功できたかどうかの確認検査は尿素呼気試験ですか？**

**尿素呼気試験で陰性の場合には終了で大丈夫なのでしょうか？**

**A** 尿素呼気試験で陰性だった場合、その精度は97%以上と報告され、便中抗原測定法も同程度の精度があると報告されています。ヘリコバクター・ピロリ学会の除菌ガイドラインでは除菌判定には尿素呼気試験と便中抗原測定が推奨されています。尿素呼気試験で陰性だった場合は、ピロリ菌感染の可能性は低いと考えられます。ただし、いずれの検査を用いても100%の正確性は望めません。ピロリ菌感染だけが胃がんの原因とは限りませんので、定期的な胃がん検診を受けられることをお勧めします。

#### 【除菌治療後について】

**Q 除菌治療しても再度感染することはありますか？**

**A** ピロリ菌の感染は抵抗力のない乳幼児期に最も多く感染するため、除菌治療に成功した成人が再度ピロリ菌に感染することは、ほぼないと思われれます。

**Q 除菌治療後に胃がん検診を受診したほうがよいですか？**

**A** ピロリ菌感染だけが胃がんの原因とは限りませんので、対象となる年齢に達したら、定期的な胃がん検診を受けられることをお勧めします。